特集：大学院日本語教育研究科における「オンライン授業」の実際

緒言：本特集の企画趣旨

小林　ミナ・舘岡　洋子・池上　摩希子

2019年秋から始まった新型コロナウイルスの世界的な蔓延、および、その感染回避のため、国内外の大学ではさまざまな対応を迫られた。早稲田大学（以下、本学）も例外ではない。本学においては、2020年３月の学位授与式、および、４月の入学式が中止され、2020年度春学期の授業開始は５月11日に延期された。2020年春学期のすべての授業は、対面ではなくオンラインによって実施されることとなった（詳しい経緯は次稿「「オンライン授業」の背景」を参照のこと）。

本研究科においても、全学の方針に従い、すべての授業がオンラインで実施された。（なお、本稿を執筆している８月１日時点では、秋学期の授業についても、「原則としてオンラインでの実施」という方針が決定されている。）

「オンライン授業」「ICT教育」については、今回のコロナ禍以前より、日本語教育においてもさまざまな実践が報告されている。また、このたびのように、もともと対面が想定されていた授業を、やむを得ない事情からオンラインに移行している現状においては、教育の内容や方法に関する本質的な議論よりも、使用するツールの特性や機能といった現実的な課題解決が優先されるのは当然であろう。

一方で、日本語教育学を主専攻とする本研究科においては、今回のような現実対応を「緊急事態における特例措置」「新型コロナへの対応」「ツールの活用」として終えるのではなく、後日、さまざまな観点から検証することが重要と考える。そのためには、教育の現場で何が起きていたのかという事実を克明に記録しておく必要がある。

本特集は、小林・舘岡・池上の、上記のような問題意識を背景に企画された。紀要編集委員会で特集の企画が承認されたのち、春学期に授業を担当していた本研究科の専任教員に呼びかけたところ、次の14本が寄稿された。

1.「「オンライン授業」の背景」	……	小林　ミナ
2.「日本語教育学入門」	……	李　在鎬
3.「日本語教育学方法論」	……	李　在鎬・小林　ミナ
4.「学習環境デザイン論」	……	舘岡　洋子
5.「言語コーパス論」	……	李　在鎬
6.「言語教育政策論」	……	宮崎　里司
7.「日本語教育実践研究（1）」	……	池上摩希子
8.「日本語教育実践研究（2）」	……	蒲谷　宏
9.「日本語教育実践研究（5）」	……	小林　ミナ
10.「日本語教育実践研究（9）」	……	舘岡　洋子
11.「日本語教育実践研究（10）」	……	戸田　貴子
12.「日本語教育実践研究（12）」	……	宮崎　里司
13.「基礎演習・演習Ⅰ」	……	福島　青史
14.「応用演習・演習Ⅱ／Ⅲ／Ⅳ」		舘岡　洋子・池上摩希子・小林　ミナ

図１　本特集の内容

１.は、そのあとに続く13本の実践報告を読み解く助けになるべく、本学、および、本研究科が置かれていた状況やそのときどきの動きを概観したものである。２.～６.は「日本語教育学理論研究科目」、７.～12.は「日本語教育実践研究科目」、13.～14.は「日本語教育学演習」について、それぞれ取りあげたものである。

コロナ禍への対応というやむを得ない事情から始まった授業のオンライン化であるが、それにより私たち教員は、「授業とは何か」「教室とはどこか」といった問いを突きつけられた。また、「大学」「留学」の機能についても、これから本質的な議論が必要になっていくだろう。

上に書いたように、本特集の主旨は「教育の現場で何が起きていたのかという事実を克明に記録しておく」ことにある。「日本語教育学を主専攻とする独立研究科」という、きわめて限定的な範囲の記録ではあるが、それ故に見いだせる普遍もまたあると考える。今回の特集が、その第一歩になっていることを願う。

（こばやし　みな　早稲田大学大学院日本語教育研究科）
（たておか　ようこ　早稲田大学大学院日本語教育研究科）
（いけがみ　まきこ　早稲田大学大学院日本語教育研究科）